

TTC 提案山行実施記録

2024年6月5日 T.S 作成

1. 山行名	高千穂峰(1,574m)・霧島山(1,700m)、開聞岳(924m) [宮崎県、鹿児島県]
2. 実施日	2024年6月1日[土]~6月3日[月] 2泊3日 公共交通機+現地:レンタカ利用
3. レベル/参加人員	レベル:★★ 参加者:8名(男性:3名/女性:5名)
4. 参加メンバ	省略
5. 費用 48,140円/人 カンパ金:115円	【出発前各人支払費用】 リムジンバス(本厚木⇄羽田空港):@1,700*往復=¥3,400、 航空券代(羽田⇄鹿児島):@7,970*往復=¥15,940 ⇒小計:¥19,340/人 【現地発生費用】 レンタカ代:51,300/台、燃料代:¥8,015、ドライブ謝礼:@5,000*3日間=¥15,000、 高速道路代(溝辺鹿児島空港 IC~谷山 IC:、額娃(えい)IC~始良 IC:、始良 IC~溝辺鹿児島空港 IC)=¥3,110、宿泊費:白鳥温泉下湯(したゆ):¥70,470+民宿うなぎ湖畔:¥80、390=¥150,860 駐車料:@500*2=¥1,000、通信費:¥1,000、カンパ金:¥115、現地発生費用小計:¥230,400 ⇒1人当たり費用:¥28,800/人 総計:¥19,340/人+¥28,800/人=¥48,140/人

6. 歩行/行動時間

	6/1[土]			6/2[日]			6/3[月]		
	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動
ガイドブック	3:20	-	-	3:22	-	-	5:00	-	-
計画	3:10	1:05	4:15	3:50	1:00	4:50	5:05	1:00	6:05
実績	3:10	1:15	4:25	3:45	1:20	5:05	5:00	1:05	6:05

7. 実行コースタイム記録

6/1[土] 天候:晴 [小休止時間省略] 高速バス SKY301 便 (昼食) 本厚木====羽田空港====鹿児島空港====ハッピーレンタ====高千穂河原駐車場====御鉢====馬の背==== 4:45 5:45-6:30 8:20 9:00 発 9:55-10:25 11:35-12:00 ---高千穂峰---御鉢---下山口---高千穂河原駐車場---霧島神宮---白鳥温泉下湯(したゆ) 12:40-55 14:40 14:50 15:05-20 16:30
6/2[日] 天候:晴 白鳥温泉下湯===えびの高原駐車場===5合目避難小屋---韓国岳---韓国岳避難小屋---大浪池外輪--- 6:30 発 6:50-7:00 8:15-30 9:00-20 10:10-35 10:50 ---えびの高原駐車場==(途中昼食)=知覧特攻平和会館===民宿うなぎ湖畔 12:05-15 12:45-13:55 15:25-16:10 17:00
6/3[月] 天候:晴 民宿うなぎ湖畔====かいもん山麓ふれあい公園---2合目登山口---4合目---5合目---6合目--- 6:30 発 6:55-7:10 7:25 8:05 8:20 8:45 ---仙人洞---8合目---9合目---開聞岳---仙人洞---7合目---5合目---2合目半---かいもん山麓ふれあい公園=== 11:15 9:23 9:43 10:05-25 11:15 11:25 12:00-30(昼食) 13:00 13:15 (砂風呂入浴) SKY308 便 高速バス ===西大山駅===砂むし会館砂楽===ハッピーレンタ====鹿児島空港====羽田空港====本厚木 14:05-15:20 17:00 20:20 21:55-22:30 23:30

8. コースの概要、特記事項、反省事項等

- 出発前から予報はずっと晴れマークで実際にも晴天が続いて、2泊3日の行程でお天気のことを全く気にしなくてよい山行はこれまでになかったように思われ、とても幸運であった。3つの頂でそれぞれに特徴のあるパノラマビューを存分に堪能することができ、本当に素晴らしい山行になった。
- “天孫降臨”の高千穂峰は、御鉢までと御鉢の縁をぐるりと回った後の山頂までが岩場とザレ場になっていて、特に下りは慎重に歩を進めなければならない。あちこちにミヤマキリシマが一面に広がっていて、事前情報では見ごろをむかえているとのことであったが、つぼみ、大きく咲いている花、ピークを越えた枯花、無残にも虫害に合っているものが混在していた。目の前には火山活動で入山規制されている新燃岳が噴煙を上げており、その先に明日登る韓国岳が雄姿を見せている。目を凝らすと山頂周辺がピンクに染まっており、楽しみである。
- 霧島連峰の最高峰の韓国(からくに)岳は、直径 900m もある火口周辺のミヤマキリシマが特に綺麗だった。ここからだとな燃岳の火口および噴煙が直接見えて、高千穂岳のシルエットが一際素晴らしかった。霧島の峰々、大浪池、桜島や開聞岳が一望でき、果ては韓国(かんこく)まで見渡せそうなほど(実際には見えない)眺望が良いことからこの名がついたといわれている。この景色を見渡すことができただけでも、今回の山旅の元を取った気がした。
- 薩摩半島の最南端に位置する開聞岳は、円錐形の美しい姿から薩摩富士と呼ばれており、車を走らせて近づいていくほどに雄大さが伝わってきた。七合目辺りまでは淡々と登っていくが、そこから山頂までは岩場、ロープ、ハシゴが続き、一汗二汗かいてたどり着いた山頂は 360° の大パノラマが広がっていて、疲れが一気に消え去るほどに感動を与えてくれた。下山後はメンバの要望に応じて計画外の2つのお楽しみを堪能した。1つは JR 最南端の“西大山駅”で「幸せの黄色いポストと単線のローカル線およびその先に広がるお花畑の向こうの開聞岳の雄姿が素晴らしい」とのこと、駅に着いたら超ラッキーなことに1時間に1本位しか運行していない電車が来て、メンバは走り回って写真に収めていた。もう1つは“指宿の砂風呂”で、初めてのメンバが多くいて貴重な体験をすることができた。
- 好天に恵まれ、3日間パタピタと計画通りに進めることができました。メンバの皆さまのご協力に感謝申し上げます。